

## (2)感染症法におけるレジオネラ症 と保健所の対応について



2024年2月15日（木）  
郡山市保健所 保健・感染症課

### 感染症法とは

感染症法の正式名称は…

「**感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律**」

法に基づき各種感染症を届け出てもらうだけでなく、  
感染症の発生や**感染症が広がるのを予防する活動を行うこと**が  
含まれています。

## 届出感染症一覧

感染症類型	感 染 症 名	医師の届出
一類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、バスト、マールブルグ病、ラッサ熱	診断後 直ちに
二類感染症	急性灰白髄炎、結核、シフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限り）、 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限り）、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）	
三類感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス	
四類感染症	E型肝炎、ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、 Q熱、狂犬病、コクシオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、腎臓慢性出血熱、西部ウマ脳炎、 腎臓慢性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、 ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、 リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱	診断後 7日以内  （※）は 診断後 直ちに
五類感染症	【全数】 アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、 後天性免疫不全症候群、シアルシア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症（※）、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘（入院に限る）、 先天性風しん症、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコムイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコムイシン耐性腸球菌感染症、 百日咳、風しん（※）、麻しん（※）、薬剤耐性アシネトバクター感染症 【定点】 RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、 感染性胃腸炎、急性出血性結膜炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く）、新型コロナウイルス感染症、水痘、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コنجローマ、手足口病、 伝染性紅斑、突発性発しん、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、 薬剤耐性緑膿菌感染症、流行性角結膜炎、流行性耳下腺炎、淋菌感染症	
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ、再興型インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症（※注）、再興型コロナウイルス感染症	診断後 直ちに
指定感染症	該当なし	診断後 直ちに

## レジオネラ症について

感染症法では、感染症が1類～5類まで分類されており、  
レジオネラ症は「4類感染症（全数報告）」に分類されています

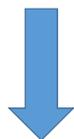
### 4類感染症：

診断した場合には、**直ちに全数届出**と定められている。

ヒトからヒトへの感染はほとんどないが、動物や物を介して  
感染する感染症。

## レジオネラ症と診断されると…

診断した医師は、最寄りの保健所へ届出をすることになっています。



保健所が届出を受理すると…

感染症法に基づき、保健所職員が「疫学調査」として、患者さんや家族に聞き取りをします。

聞き取り調査は、発症前14日間にさかのぼります。

その14日の間に公衆浴場等を利用していた場合、レジオネラ症の感染源になっていないか、確認をすることになります。

## レジオネラ症

- レジオネラ属菌の感染によって起こる感染症。

菌が人工水環境（循環式浴槽、冷却塔、給湯設備など）の水の中で生息するアメーバ類の細胞内で増殖し、そのエアロゾル（しぶき等）を吸入して感染する。入浴設備の衛生管理が重要。

- ヒトーヒト感染はないといわれている。
- 肺炎を主症状とした全身倦怠感や筋肉痛、発熱等の「レジオネラ肺炎」が大半を占める。有効な抗菌薬治療がなされないと致死率は60～70%といわれる。高齢者、糖尿病患者などは、かかりやすいといわれている。

## 感染症の拡大を予防するために

公衆浴場やプールは、多数の方が同時期に利用するため、ヒトからヒトへの感染はないものの、レジオネラ属菌を原因とした感染が拡大する可能性があります。



保健所職員が公衆浴場等に連絡を取り、清掃・消毒の実施方法や頻度について聞き取り調査や資料提出依頼を行います。日頃実施しているレジオネラ症予防対策の確認です。

## レジオネラ症が発生した際には

- レジオネラ症の届出があれば、全例調査します。
- 発症前14日間に公衆浴場等の利用があれば、施設のレジオネラ症予防対策について聞き取りをし、資料提出を依頼します。

感染症法に基づき、感染症のまん延を予防するために行う調査です

皆様、ご協力をお願いします